

秋の行楽シーズン、一度は行ってみたいと家族からのリクエストもあり、ドライブも兼ねて砂川市にあるコスメブランド『SHIROみんなの工場』へ行ってきました。

私自身が化粧品に疎いこともあり、今まで知りませんでしたが、北海道発祥の化粧品メーカーで自然素材にこだわり、がごめ昆布やワラワラなど北海道特産の素材を使った製品もあり、とても親近感が湧きました。

オシャレな施設内はフレグランスの良い香りが漂い、ガラス越しに見ることができる工場、薪窯で焼くおいしいピッツァを頂けるカフェ、キッズスペースや図書館がありました。ショップでは自分で香りをブレンドしてマイフレグランスが作れるブレンダーラボがあり、大変盛況でした。また、こちらの施設はペットが同伴できますので、愛犬と一緒にゆっくり楽しむことができました。

札幌営業所(所長:清水 壮次郎)



世界の拠点から
- From the base in the world -



～CANADAで『スピードの向こう側』を見てきました！～

先日、CANADAへ出張に行ってきました。今回の出張の目的は、お客さんとのミーティング。それに加えて、KCSでハイパフォーマンススラジエーターなどのスポンサーもしているため、CANADAで開催されるイベントのスポンサーシップもあり、当日はレーストラックへ行く予定もあって楽しみにしていました。

そして、いよいよイベント当日。私もトラックへ行きました。何気なく主催者の方から、「今日、乗るよね？」みたいな軽いノリで聞かれ、それに対して思わず「もちろん！」と返してしまった自分がいました。ちょっと「あれ？」と思いながら、いよいよレースが始まりました。最初は初心者クラスからスタートし、その後、中級クラス、上級クラスという流れで進んでいきました。

すると突然、「はい、次はAyanoの番！」と横から声をかけられました。気が付けばそこには、Dodge Viper ACR(ハイパフォーマンス・スポーツカー)が私を待っていました。バケット型のシートに座り、まるで子供のチャイルドシートのようなシートベルトで体を固定。助手席に乗り込んだ瞬間から、心臓はもうドキドキ。そして、いよいよトラックへ Let's Go! 気が付けばスピードは時速285km超え。人生で初めて『スピードの向こう側』を見てきました。

そして車を降りた後に思ったことは1つ。行きの「もちろん！」は少し軽すぎたかもしれない…(笑)。『スピードの向こう側』は見ましたが、間違いなく心臓はどこかに落としてきました(笑)。



KCS(アメリカ)(GM:Ayano Donnelly)

皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は石井食品を紹介いたします。

石井食品と聞いてピンとこない方も多いと思いますが、スーパーや家庭のお弁当等でよく見かける『イシイのおべんとクン ミートボール』、『イシイのチキンハンバーグ』などを製造・販売している会社で、実はその石井食品の本社がコーヨーラドセールス・東日本営業本部と同じ千葉県船橋市にあります(私も散歩をしていて偶然見つけました…)。

ここは本社のみで工場は他の地域にあるようですが、本社ビル1階に『ヴィリジアン』という名前の直営のカフェと直売所があり、ミートボールやハンバーグなど石井食品の商品を使用したメニューを注文出来るようになっていて、お子様向けのものもあります。ただ営業時間は昼の時間帯のみとなっていました。

また直売所では石井食品の商品や地場千葉県の食材などを購入することも出来ます。店の前には冷凍食品の自販機もありました。

専用の駐車場が無いので、やや不便な面もありますが、メニューが懐かしい感じがして楽しい場所でした。

東日本営業本部(部長:高橋 鉄夫)

中日本営業所(部長:藤谷 弘行)

今年は雨が多く災害級の雨量となる日も増え、被害に遭われた方の早い復興を願うばかりです。心よりお見舞い申し上げます。

さて、食欲の秋となってきました。今回は静岡の炭火焼レストラン『さわやか』をご紹介します。ここはげんこつハンバーグで有名。以前、テレビ番組で見てから行ってみたいと思っていました。店内は普通のファミレスの感じです。げんこつハンバーグをオーダーし、到着するとテーブルでスタッフさんが丸々としたハンバーグを半分に切って目の前で鉄板に押し付けてくれます。紙ナプキンで防御しながらジュージューと煙と油が飛ぶさまは食欲を刺激してくれます。分厚い為、外はこんがり、中はレアな感じ。肉質も良く非常においしい。また静岡に行った際は寄ろうと思います。

『鳥取砂丘』と聞けば、日本を代表する砂丘を思い浮かべます。しかし意外にも、鳥取砂丘は日本で最も大きな砂丘ではありません。それでも、東西約16km、南北約2.4kmに広がる景色は圧巻です。形成が始まったのは約10万年前。目の前に広がる砂の大地を眺めていると、まるで砂漠に迷い込んだような気分になります。砂漠は雨が極端に少ない地域ですが、砂丘は風に運ばれた砂が積み重なってできた地形です。山から川へ、川から海へ。そして海から風に乘って陸へ。小さな砂粒の長い積み重ねが、この景色をつくりました。

砂丘に入ると、中央に『馬の背』と呼ばれる砂の丘が見えてきます。入口からは近く見えますが、砂に足を取られながら登る丘は、思った以上に体力を使います。それでも、登り切った先に広がる青い日本海を目にすると、疲れを忘れてしまいます。

風が吹くたびに砂は動き、美しい風紋を描きます。約10万年をかけて生まれ、今も姿を変え続ける景色の魅力は、広さや高さだけでは測れません。

鳥取を訪れる機会がありましたら、砂丘にも足を延ばし、馬の背の先に広がる日本海の景色を体感されてみてはいかがでしょうか。

西日本営業所(部長:木下 敦裕)

8月からブカシ、ジャカルタ付近をはじめ、インドネシアの多くの地域で雨がほとんど降っていません。例年なら午後には激しいスコールがあり、夕立の後の涼しい風が楽しみな季節のはずですが、今年は全く違います。毎日雲1つない青空が広がり、太陽が容赦なく照りつけています。アスファルトは熱で揺らめいて見え、外を少し歩くだけで汗が噴き出し、扇風機の風さえ生ぬるく感じます。9月に入っても状況は変わらないのです。

ニュースでは、今年の8月は観測史上最も雨が少なく、貯水池の水位も大幅に下がっていると伝えていました。近所の川は茶色い土が見えるほど水かさが減り、田んぼの稲は黄色く枯れ始めていました。農家の人たちの顔には、深い疲れと不安の色が見えました。

私の家の小さな庭の花も、朝と夕方に必死に水をやらなければ、すぐにしおれてしまいます。まもなく10月です。例年なら雨季の始まりを感じる頃ですが、まだ全く雨の気配がない。毎晩、私は窓を開けて暗い空を見上げ、遠くで聞こえるはずの雷鳴を待っています。あの懐かしい土の匂いと共に、恵みの雨は一体いつになったら戻ってきてくれるのでしょうか。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhyar)

～上海版成田エクスプレス～

蘇州に住む駐在員で、中部国際空港へ向かう人が利用するのは、お隣上海の浦東国際空港です。隣町とはいえ、上海は人口約2,400万人を抱える中国一のメガシティで、省に属さない独立直轄市。面積も巨大です。浦東国際空港は上海市の東の果て、海沿いにあるため、蘇州からは約150km。ちょうど名古屋から大阪くらいまでの距離感です。車で2時間、渋滞にはまると3時間かかることも。近いようで遠いんです。東京や大阪行きなら上海都心部の虹橋国際空港からも便が多く、蘇州からも1時間足らずです。しかし、名古屋便は浦東国際空港からしか飛んでいません。

上海都心部からも浦東国際空港までは1時間程度かかるため、アクセスはイマイチでした。

その後2025年の1月に待望の虹橋国際空港から浦東国際空港までの直通特急列車『市域鉄道』が開通し、一気にアクセスがラクになりました。約60kmの距離が約40分です。特に予約も不要で、スマホのアプリを使って地下鉄感覚で利用でき、とても便利です。15分間隔で出ており、椅子も柔らかいです。60kmの距離はちょうど東京から成田空港までとほぼ同距離で、渋滞知らず。しかも料金は26元(2026年9月現在:約610円)です。上海版成田エクスプレスはかなりお値打ちで、駐在員にとって便利な味方になりました。

KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

週末の朝、緑豊かな自然の中で鳥のさえずりを聞きながら、のんびりと外で過ごす時間が好きです。忙しい平日の疲れを癒やし、心身をリフレッシュできるひとときですから。

ある日曜の朝、いつものようにジョギングをしていた時のことです。パパイヤの木に白いオウムが止まっているのを見つけました。よく見ると、パパイヤの1つに大きな穴が開けられていました。オウムのくちばしが、硬いものを砕いたり突いたりするのに適していることは知っていました。しかし、実際にそのオウムが硬い青パパイヤを突いて食べている姿を目の当たりにして、思わず感心してしまいました。あんなに小さな体なのに、くちばしの力だけで硬い青パパイヤに穴を開けてしまうなんて…本当に驚きです。パパイヤを食べるには何度も繰り返し突く必要があることを、そのオウムはちゃんと分かっています。小さな生き物から『継続することの大切さ』を教わったような気がします！

自然というのは、いつだって興味深いものです。うまく言葉にはできませんが、私はこうした自然との触れ合いを心から楽しんでいます。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

ザントフォールトで開催されていたF1オランダGPは、2026年をもって終了することになりました。このレースは、その熱気あふれる空気と、オランダ人ドライバーであるマックス・フェルスタッペンへの熱烈な支持によって、非常に高い人気を得ていました。

私はSEACON(シーコン)社からの招待で、幸運にもオランダGPを観戦することができました。私たちは、オレンジ色の服を身にまとった大勢のフェルスタッペンファンと共にバスで会場へ向かいました。私にとってこれが初めてのF1体験でしたが、決して忘れることのできない1日となりました。会場の雰囲気は最高で、音楽やエンターテインメントがあり、何千人もの熱狂的なファンが集まっていました。私たちの席はサーキットを一望できる素晴らしい場所でした。

私が現地を訪れたのは金曜日だけで、その日はドライバーたちがフリー走行やスプリントレースの予選に参加していました。最も印象に残ったのは、F1マシンの驚異的なスピードです。写真を撮ろうとするたびに、マシンはすでに視界から消えてしまっていました。あまりにも速すぎたのです。そのため、まともな写真は撮れず、動画を撮ることしかできませんでした。レースの最中、フェルスタッペン選手が苦戦しているように見えました。決勝レースは現地で観戦しませんでした。後でレース結果を確認したところ、フェルスタッペン選手はグランプリ中にクラッシュしていました。好成績を期待していた多くのオランダ人ファンにとっては、非常に悔しい結果となりました。

レース以外でも、プランに含まれていた食事や飲み物は素晴らしいもので、1日をより一層楽しむことができました。2026年以降、F1がザントフォールトを去ることを考えると、この体験はさらに特別なものに感じられます。現地を訪れる機会に恵まれたことに感謝しています。これは、これからずっと心に残る素晴らしい思い出です。

KIO(オランダ)(Marvin de Laat)